

令和7年度保健消防委員会行政視察報告書

保健消防委員会
委員長 植 草 毅

【視察日程】 令和7年12月15日（月）

【視察委員】 委員長 植草 毅
委員 石川 美香、黒澤 和泉、野島 友介、
前田 健一郎、石川 弘、小坂 さとみ、
酒井 伸二、中村 公江

【視察地及び調査事項】

千葉市立新病院

千葉市立新病院の工事の進捗状況や事業概要について

1 新病院

調査目的	千葉市立新病院の工事の進捗状況や事業概要について確認するため、現地調査を行う。
視察概要	<p>1 調査項目 千葉市立新病院の工事の進捗状況や事業概要について</p> <p>2 対応者 病院事業管理者、病院局次長、海浜病院長、 病院局経営企画課開院準備担当課長、病院整備室長、総括主幹、 海浜病院医事室長</p>  <p style="text-align: right;">【職員から説明を聴取】</p> <p>3 主な質疑応答（□：質疑、■：答弁）</p> <p>□海浜病院では井水をおある程度使用しているという話も聞いたことがあるが、飲料水として使用して大丈夫なのか。また井水を災害時に使う際、普段から使用していないとなかなか災害時に使用することができないと思われるので、常時使用することになっているのかを確認したい。</p> <p>また、リニアック周辺の遮断方法について、コンクリートの厚さ1.3m、厚さ25mmの鉄板が入っているということで正しいのかを確認したい。</p> <p>■井水の飲料使用は、検査したうえで安全なものと確認された場合に使用する。通常時も含めて利用できるものにして考えている。</p> <p>■海浜病院の井水については、開院当初は利用をしていたが、現在は利用できない状態になっている。新病院については、飲料水として利用できるレ</p>

	<p>ベルまできちんと浄化し、災害時に転用できるようにしている。</p> <p>■青葉病院はもう10年ぐらい前に1か所だけ井戸を掘った。井戸水の方がコストが安いので、今はどの病院も井戸を掘れるところは掘っているはずである。大学病院は3か所井戸を掘って使用している。新病院では2か所井戸を掘り、通常時も飲料水として使用する予定である。</p> <p>■リニアックに関して、先ほど説明した通り1.3mの厚さがあり、その中に25ミリの鋼板が20層ある。鋼板は全部で0.5mになる。一度には搬入できないため、25ミリを重ね合わせて厚さを確保している。</p> <p>□新病院の出入口部分の強風対策について伺いたい。</p> <p>■特別な対応は行っていないため通常の措置にはなるが、出入口部分には風除室を設けており、自動ドアが二重になっていて、風が直接入らないようになっている。</p> <p>■雨に関しては、大きなひさしを設置するため、2か所ある玄関まで雨にぬれずに建物内に入れるようになっている。</p> <p>□幕張新都心は特に海風が強いと感じている。何かしらの対策を考えたほうがよいのではないかと。</p> <p>■状況を見ながら、最善の形にしていきたい。</p> <p>□院内保育所が別に設置されているが、病院職員のみが利用する想定なのか。利用者数はどれくらいか。</p> <p>■病院職員が利用するものである。現状平均すると多い時でも1日10人ほどの利用である。</p> <p>□外観は今後どのようなイメージになっていくのか。</p> <p>■配布した資料と概ねイメージは変わらないものになる。設計の段階から病院全体の色彩計画を作成し概ねこの形で進めている。</p> <p>□病床数が多く、病院の位置も考えると駐車場の台数は十分なのか。</p> <p>■駐車場については、患者用として250台であり、概ね十分な台数を確保できるものと考えている。また、最寄り駅から徒歩20分ぐらいの位置にあるため、主要バス路線の確保は重要であると考えている。バス事業者との協議は引き続き進めており、しっかり確保できるように努めていきたい。</p> <p>□ストレッチャーや車いすなどを動かす場合、見学した個室病床の広さで</p>
--	---

は狭いように感じるが、十分確保されているのか。

- 個室率が全体の47%であり、個室の数が多いのが新病院の特徴である。様々な種類の個室があり、先ほど見学した個室は狭いものであり、あの個室よりも広い部屋はいくつもある。

□太陽光発電は病院内における電力供給にどの程度用いられるのか。

- 太陽光発電は、10キロワットに限って設置しており、目的は災害時のバックアップ電源である。新病院にはヘリポートや機械設備機器などが設置されており、太陽光発電は限られたスペースの中で設置することとなっている。

□新病院開院にあたっての会派等への説明について、スケジュールを知りたい。

- 開院前の9月中旬より少し前に、議員の皆様にも見ていただく機会をつくろうと考えていることから、今後案内させていただく。

□新病院では病児保育が可能なのか。

- 病児保育については、ここに至るまでこども未来局と様々な議論を重ねてきた。病児保育は今、千葉市では全てクリニック併設型であり、選定療養費の問題など病院併設型で設置するには課題が多い。

□シェアサイクルが6台用意されるが、一般駐輪場はそもそもあるのか。

以前青葉病院で患者として訪問した際、駐輪場の場所が非常にわかりにくい。既に駐輪場が埋まっており、駐輪することができなかった。新病院ではどの程度確保されているのか。

- シェアサイクルは6台設置するが、職員、一般の方がともに使用できる場所に設置する予定である。駐輪場については、一般用41台、職員用90台確保している。海浜病院の利用実績から台数を見込んでおり、青葉の事例も参考に計画したところである。

□福岡市の認知症ケアセンター視察で得た知見として、認知症の方にはサイン（案内表示）が高い位置にあると見つけにくく、壁がすべて白いと区別がつきにくい。壁の色分けやサインの高さを工夫することで移動のしやすさが大きく向上するというデータがある。このことから、新病院ではそのような認知症への配慮が取り入れられているのか確認したい。

- 認知症の方への配慮についてのご意見であるが、あいにくこの建物につ

	<p>いては認知症の方に特化してデザインを計画していない。ただ、サインが適切かどうかを障害者団体の方々と協議しながら進めてきたところである。極力利用者の皆様にとって使いやすい建物を計画している。</p> <p>□諸室の重要性が全く異なるのが病院であると考え、部材や工程の管理の仕方など、一般的な建築現場と異なる部分について教えてほしい。</p> <p>■病院は、建物の柱、梁といった全体の構造とは別に、多くの設備機器が配置されているところを工事現場にてご覧いただいたところである。</p> <p>天井の裏には、電気、水道、消防、換気、空調、そういったものが複数層になっている箇所もある。その一通りの工程が終了した後、初めて天井や壁を張る工程が進んでくる。それぞれの工程において相当数の技術者が作業し、その段取りの調整が複雑になるところが特異的なところになってくる。建物で言うと、マンションなどは同じ平面計画の階層が複数に重なって進んでいくものであるが、今日見学した部分は、それぞれの階が異なる計画に基づいて建築が進んでいくという違いがある。</p>
<p>主な 委員所感</p>	<p>○新病院は、病院本体棟を中心に、高度医療棟や立体駐車場、職員用の院内保育所などで構成され、免震構造や地盤のかさ上げ、屋上ヘリポートの設置など、災害時にも医療を止めないための備えが随所に施されていると感じた。</p> <p>井戸水を通常時から飲料水として活用し、非常時にも利用できる体制を整えている点は、災害拠点病院として非常に重要であると感じた。</p> <p>見学では、放射線治療室（リニアック室）や手術室、病棟エリアなど、普段は目にすることのない施設を確認した。1.3メートルを超える遮蔽壁や、環境に配慮した遮蔽材の採用など、医療安全と環境配慮の両立が図られている点も印象的であった。</p> <p>今後、移転に伴う休診期間や患者搬送計画、個室の利用料金など、市民へ丁寧な説明していくべきであると感じた。</p> <p>高度化・大規模化する医療を支える新病院が、地域の命と暮らしを守る拠点として着実に整備されていることを確認できた見学会であった。今後も、完成・開院までの過程をしっかりと見届けていきたいと思う。</p> <p>○新海浜病院の建設中の現場を視察し、まず新しい図面を見せていただいた。図面では駐車場や各階のフロアマップが示され、階ごとに手術室や病棟、受付など役割が異なるため、配管や空調、電気配線が非常に複雑であり、丁寧な施工が行われているとのことであった。</p> <p>また、リニアックを備えた部屋では、コンクリートは1.3mの厚さとし、その中に25ミリの鉄板を20層重ねているなど、放射線遮断対策がしつ</p>

かり取られていることを確認した。

工事の進捗については、建物全体の躯体工事はすでに終わり、現在は内装と仕上げの段階に入っているとのことであった。あわせて、推進工法で進められる雨水管の埋設工事の現場も見ることができた。当初、掘削して進めようとしていた場所に、幕張メッセにも続く高圧電流電線が埋設されていたことが判明したと伺い、誤って工事が進む前に判明したことは非常に重要であり、結果として良かったと感じた。

非常時だけではなく通常時も井戸水を活用することで水道代を節約できる点についても説明があり、青葉病院や大学病院同様、新病院でも井戸水を利用する予定である。現在の海浜病院では井戸の運用が難しく、今は実施されていないとのことであった。

交通面に関し、バスの便についてはバス運行事業者と協議を進めており、また駐車場や自転車置き場も十分に整備されている。

さらに、入院患者用の個室についても見学した。1人部屋と4人部屋があり、1人部屋はやや狭めに感じたが、ビジネスホテルよりやや広めに作ってあるとの説明であり、各個室にシャワーとトイレが完備されているため、一つの部屋で全てが完結する点は良いと感じた。個室率も47%と、他の病院に比べ高いとのことであり、この活用が事業収入増に貢献してくれることを期待している。

○建設工事は概ね順調に進捗していることを確認した。

最新鋭の医療提供を目指す以下の施設の整備状況について評価する。

1階（リニアック室）は高度な放射線治療を実現するための施設である。遮蔽には、コンクリートの層間に25mm厚の鉄板を約20層挿入するミルフィーユ工法、および中性子線対策としてポリエチレン材が使用されていることを確認した。

2階（手術室）では高度で複雑な手術に対応するためのスペースが確保されていることを確認した。

4階（4A病棟）では患者の療養環境となる病室の配置を確認した。

外構では隣接する都市公園周辺の整備状況を確認した。

最新設備を備えた施設の建設は評価するが、公立病院として市民の安全と公共的役割を果たす上で、以下の点を確認する。

高度な遮蔽技術（ミルフィーユ工法、ポリエチレン利用）の採用は確認したが、多額の公費を投じた設備であるため、放射線遮蔽構造の安全性について、最高水準の基準が永続的に担保されることを証明する資料の提出を求める。また、機器の技術革新や故障に備え、将来的な機器更新や増設の際の構造的な柔軟性・拡張性を設計段階でどのように考慮しているのか、

検証が必要である。

公立病院は災害時の「命の砦」であり、施設の堅牢性が重要である。2階の手術室など生命維持に直結する重要エリアが、大規模災害によるインフラ停止時にも中断なく稼働し続けられるよう、電力・水・医療ガスといったライフラインの冗長性を施設設計上どこまで確保しているのか確認が必要である。

4階の病棟や2階の手術室において、院内感染防止のためのゾーニング（区域分け）や空調管理システムが、感染症の波に柔軟に対応できる設計となっているか、具体的な工夫と検証結果を開示すべきである。

また、外構整備にあたり、交通弱者が利用しやすい公共交通機関（バス）のアクセス性と、隣接する都市公園との調和を図るための具体的な環境配慮計画を求める。

新病院が単にハードが立派な病院ではなく、市民の命と健康、そして安全を第一に考える「真の公共病院」となるよう、今後も市民の視点から建設・運営の状況をチェックし、改善を求めていく。

○通常では見学できないところを見せていただき、感謝している。

○普通の一般建築と異なり、病院は特別な機器を扱うため、放射線対応の壁や天井、床の強度等に驚かされた。病棟にも病院としての特別な配慮がなされていると感じた。千葉市民、近隣の市民のためにも早い完成と開業を望んでいる。

○病院という特殊な設備の建設現場はあまりに特殊すぎて具体的なコメントができないが、現場の方々の様子から、極めて慎重に建設に携わってくださっていることを感じた。特に、人命を預かる施設としての高度な専門性と安全管理が随所に徹底されており、深い信頼を覚えた。

本病院が地域の医療体制を支える重要な拠点となることを期待し、この新しい街並みと調和し、長く地域に愛される施設となるよう、現場の皆様が最後まで安全第一で高品質の施設の完成に尽力されることを心より願う。当方としても、この新たな医療拠点の円滑な開院に向け、必要な支援を惜しまない所存である。

○新病院の建設がかなり進んでいること、鹿島建設をはじめ、950人の方が病院の建設のために尽力されていることに感謝している。

リニアックが418トンもあり、部屋が狭く、それでも搬入するために耐えられる施設を整備することの大変さも実感した。また、6億円もかかる高額な機器であると思った。

4人部屋はカーテンで仕切る方式であり、プライバシーの面では不十分ではないかと思う。個室が一番小さいもので全体の5割が個室ということで

あるが、どんな場合に個室を使うのか。もっと大きな部屋もあるということであるが、現場で従事した経験のある者としてはかなり小さく感じた。周辺の貯留槽や公園の整備、また排水のあり方なども見ることができ、図面だけでなく、より具体的に想像できた。

病院内見学の様子

